

幼児への読み聞かせから生まれる音楽表現

杉本 俊

岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師

Musical Expressions Generated from Reading Aloud to Young Children

Shun SUGIMOTO

キーワード：読み聞かせ 歌 擬音語 タンバリン 音楽表現

I. はじめに

幼児とは、児童福祉法第4条第1項にて「満1歳以上就学前の者」と定義されており、満1歳から小学校就学までの子どものことをいう。

幼児の表情はとても豊かである。明るい時にはとても笑顔になり、怒った時には拗ねた顔を作り、悲しい時には涙を流し泣き顔になり、楽しい時こそニコニコ顔となる。そういった幼児の素直且つ自然な表現は、同時に身体表現にも表れる。今回幼児に対し読み聞かせをし、どこでどのような表現を示すのか、また楽器を持たせることでどのような音楽表現をするか、6人の幼児に対する読み聞かせを行った。

II. 実践研究読み聞かせの事前準備

会場は、教室内正面に譜面立てを1台置き、その上に読み聞かせの本を置いた。また幼児たちが立ち座りした状態でも見やすい様、本の位置は立った時の幼児目線よりもやや低めに高さ調整した。その隣に電子キーボードを設置し、その他ホワイトボードを用意した。また幼児たちにはそれぞれ一人につき1台タンバリンを持たせた。(図1)

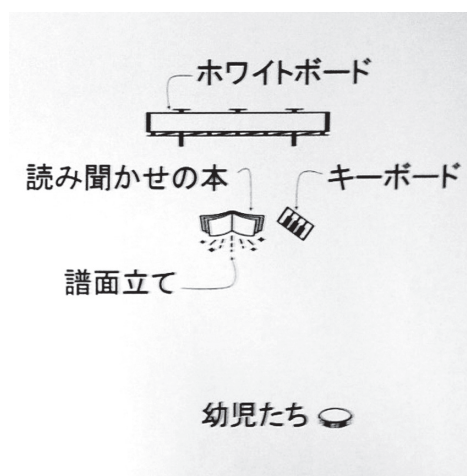


図1 会場配置図

読み聞かせの本

「たいこうち たろう」(庄司三智子 さく：佼成出版社)

話の内容は読み聞かせを全行わず、本文頭から途中29頁までとした。各自幼児たちにはタンバリンを1台ずつ持たせ、聞きながら自由に叩くことができるようにした。読み聞かせの合間には話の場面転換を分かりやすくする為ホワイトボードに明記をし、また電子キーボードの鍵盤を弾いたり滑らしたりし効果音を表すようにも行った。

Ⅲ. 実践内容の詳細

調査は2019年9月、子どもの読み聞かせ活動を推進し、読み聞かせ活動に積極的な取り組みを行っているマルシュー楽器豊田店にて行った。子どもを対象とする読み聞かせをし、様子を参与観察すると共に、楽器を持たせた反応への展開を窺った。

1. みんなで歌いましょう

幼児とのコミュニケーションを大切に、みんなで楽しく歌を歌った。

曲目：「さんぽ」（となりのトトロ より）

<歌う幼児を見ていて気付いた点>

- ・幼児たちは前奏に合わせて腕を大きく振り、足踏みをした。歌の出だし「歩こう 歩こう わたしは元気」に入ると、幼児たちはニコニコと笑顔で元気良く歌い、曲に合わせて左右に身体を揺らしながら歌っていた。
- ・幼児たちはこの歌をととても気に入っている様子が窺え、楽しい歌詞の様子が幼児たちに浸透しているようだった。

2. 読み聞かせの始まりと幼児たちの様子

<導入>

- ・聞き始めは座って静かに聞いている。
- ・タンバリンを持つ手は休め、手は膝に置いている。聞きながら時折「トン、トン」と気楽に膝を叩く様子が見えた。口は瞑り、幼児たちは静かに聞く体勢となった。
- ・読み聞かせが始まる。話の中には太鼓の音を表す擬音語が多くあり、擬音語に合わせてタンバリンを叩く幼児の楽しい様子が見えた。
- ・「あいよ がってん とろたんたん
「たあんと たんと とろたんたん
たろうが村のしゅうの願いを聞き、いざ出かける場面、波線部分では一文字ごと言葉に合わせてタンバリンを叩く幼児が1人いた。(図2)



図2 一文字ごとタンバリンを叩く幼児

<展開>

- ・たろうが出かけ、雷神様に会いに向かう場面では、静かに座っていた幼児たちの中から2人3人と立ち上がり、タンバリンをさらさらと振っていた。
- ・「どどここ どこんこ」「つく つくつく てんつくつ
の波線部分では、言葉に合わせてタンバリンを太鼓のように強く叩く幼児が2人いた。
- ・「かっから かんから かあらから」「かかっか かっか うっかっか
たろうがからすや河童と出会う場面。波線部分では、幼児たち2人がダンスのようにぴょんぴょんとその場で飛び跳ね、楽しく踊る様子を見せた。タンバリンもシャカシャカと大きく振っていた。(図3)
- ・「てれすく てれすく てれすくす」「すったか しええと すったかたん
たろうがくすのきやタカと出会う場面。幼児たちは話に続いて擬音語を楽しく口に出していた。タンバリンを持つ手は静かに止まっていた。
- ・「てんてん うってん うってんてん」
天狗と出会う場面では、擬音語を口に出しタンバリンを叩いていた。特に「うってんてん」の波線

部分を言葉に合わせてリズムよく叩く幼児が3、4人いた。(図4)

- ・タンバリンを叩く様子は、叩いたり振ったりと楽しそうな雰囲気であった。



図3 擬音語に合わせて踊る幼児たち



図4 擬音語を口に出しタンバリンを叩く幼児

<山場①>

- ・山場に入り、幼児たちの様子は徐々に楽しさから深刻さへと変わっていく様子だった。ピタリと身体も止まり、視線は絵本へ一直視であった。
- ・「だだだ だだだ だんだん」
たろうが雲の階段を駆け登る場面。幼児は擬音語とタンバリンとを合わせて叩いた。
- ・幼児の話す声も大きく、タンバリンを叩く速さも早く、強く感じた。(図5)

<山場②>

- ・「ばらばらばらばら ばらんばらん」
りゅうがたろうを背にのせ雷を放ち、大海原まで駆けめぐらる場面では、3人の幼児たちが実際に示したいと積極的に前へ立った。(図6)
- ・A子さんは優しい感じで話し、タンバリンも一文字ごと言葉と合わせ弱く叩いた。
- ・B子さんは元気よく早口で話し、タンバリンは波線部分を一文字ごとに強く叩いた。
- ・C子さんは、二重線の最初の部分を弱く話し、徐々に強く話した。タンバリンは振って音を出した。波線部分は強く激しく発した。タンバリンも言葉に合わせて徐々にだんだん強く、最後は強く叩いた。(図7)

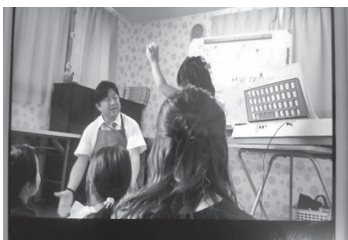


図5 擬音語と合わせてタンバリンを叩く幼児



図6 場面の様子を前で示す3人の幼児たち1



図7 場面の様子を前で示す3人の幼児たち2

3. みんな笑顔で歌いましょう

声を揃え、心をひとつに、みんな楽しく歌を歌った。

曲目：「さんぽ」「ミッキーマウスマーチ」

今回読み聞かせを通し、静かに聞く姿勢もあった中、幼児たちは擬音語に合わせて踊り、言葉を発し、また途端に前に立ってタンバリンを叩いたりする様子もあり、いろんな音楽表現を示した。みんな楽しく読み聞かせを聞いたこと、また楽しく頑張れた積極性にみんなで拍手し褒め合い、最後はみんな歌いましょうと締めくくった。

IV. 考察

幼児たちの表現は、それぞれの場面に感じるたろうの気持ちや行動と重なっていた。また、たろうの村のしゅうへの優しさが、幼児たちの持つタンバリンにて時折「トン、トトン」と気楽に表現させるよう伝わっていたと窺える。導入場面では、一文字ごと言葉に合わせてタンバリンを叩く幼児の姿が見られ、楽しく元気よく叩いている表現が伝わった。展開場面、すっと立ち上がりダンスのようにびよびよんと飛び跳ね、タンバリンもシャカシャカと大きく振り鳴らし、幼児たちは明るく楽しく踊る様子を見せた。擬音語にも馴染みやすい様子であった。山場①、幼児たちは言葉とタンバリンとを元気よく合わせて発し、まるで幼児たちも一緒に立ち向かうようなイメージだった。タンバリンを叩く速さも早く強く感じ、真剣な幼児たちの雰囲気だった。山場②では、3人の幼児たちが実際に示したいと積極的に前へ立った。A子さんは優しい感じで話し、タンバリンも弱く叩いたことで、素直で優しいたろうを表現し、B子さんは元気よく早口で話し、タンバリンは言葉と合わせて強く叩いたことで元気で前向きなたろうを、C子さんは最初を弱く徐々にだんだん強く激しく話し、タンバリンも同様に叩いたことで心豊かで行動力のあるたろうの表現であった。

表現には大きく分けて「喜怒哀楽」と4つの種類がある。今回幼児に楽器を持たせたことで、その場での表現種類の豊富さが楽器にも伝わっていたことが分かった。それは、嬉しい時はタンバリンを嬉しいうように軽く弾んで叩き、激しい雰囲気の際はタンバリンを激しく強く叩く。明るい時にはタンバリンを振り、言葉に合わせて叩いたりもした。また幼児たち自らが立って話し、前にてタンバリンを叩きたいといった姿勢に集団行動の楽しさを感じた。話す声も叩く音も盛大であったと発見した。

V. まとめ、今後の課題

幼児たちの表現はとても素直で豊富・柔軟性がある。嬉しいと感じれば嬉しく表現し、悲しいと感じれば悲しく表現している。さらに楽器を持たせたことで音楽表現も表している。それは音楽能力を感じるものでもあった。今回この読み聞かせを行い、話の内容を頭の中で広く描き、大きく伝えたいという幼児たちの素直な気持ちがあることを幼児たちの身体全体から多く感じ取れた。幼児たちの笑顔には夢や希望が無限に溢れ出ている。そういった未来を音楽表現能力と共に広く豊かに育てつつ、温かく大切に見守っていけるよう子どもの発達を捉え、豊かな感性や表現する力を養う指導法を今後も研究していきたいと考える。

また実践調査時はコロナ禍寸前にあたる。今なお続くコロナ禍、大きく歌いたくても歌うことのできない幼児たちは表現することをも抑制されている。マスクの下でも笑顔の溢れる幼児たちの姿を切に願ひ、幼児たちにとって明るい未来を音楽表現と共に創っていきたいとも考える。

注・文献

- 1) 庄司三智子 (2013) : 「たいこうち たろう」, 佼成出版社, 1-29.